



はていはてい

## HATI-HATI



HATI-HATIはインドネシア語で相手を思いやる時に使うやさしいことばです。



日本文化体験「初釜」を行いました。

当日は、厳かな雰囲気の中でお茶会が行われ、日本の伝統文化に触れる貴重な時間となりました。お茶席では、お抹茶とともに新年ならではの「花びら餅」もいただきました。実習生のメイダさんが初めて着物を着て、来客者の皆さまにお茶をお出ししてくださいました。慣れない装いの中でも、心を込めて

おもてなしをする姿がとても印象的でした。

日本文化の魅力を味わう素晴らしい体験となりました。

インドネシアでの体験 - お客様より同僚が大切 -

公益社団法人 트레이ディングケア 小笠原 広実

海外で過ごしてみると、日本では当たり前だと思っていたことが、実はそうではなかったと驚く体験をします。インドネシアで仕事をしていて初めにびっくりしたのは、お茶を運んできたスタッフが、お客さんではなくまず身内の私たちにお茶を差し出したことでした。日本人の多くは、小さい時から、相手の立場で考えなさいと何回も言われて育ってきています。当然、お客様をもてなすには、その人の気持ちを考えて、まずお客様にお茶を出すのが当たり前です。ところが、この「お客様から」を何回説明してもわかってくれないスタッフがいてとても不思議でした。

ある時、文化や国民性の特徴を数値化する”ホフステードの6次元モデル“の話聞く機会がありました。個人主義か集団主義（和を重んじる）か という視点があるのですが、日本は集団主義で企業など所属先の利益を重要視するけれど、世界の多くの国では、自分や自分の家族・身内を第一に考えることを知りました。インドネシアのスタッフにとって、お客様はその時だけの関係ですが、上司や同僚は身内であり、ずっと一緒に仕事をしていくので、より重要だったのです。そのためにまず身内にお茶を出していたのだとわかりました。

ほかの場面でも、看護師が患者さんに対応しているときに、昼食を調達する係のスタッフがメニューの希望を聞くと、看護師も患者さんを待たせてスタッフに対応する。すると日本人の患者さんは怒り出す...ということがよくありました。看護師たるもの、患者さんのことを第一に考えて仕事をするのが当たり前だと思っていた私にはかなりショックな出来事でした。でもインドネシア人のスタッフにとっては、患者さんよりも、話しかけてきたスタッフとの関係のほうが重要なのでした。

私たちは、自分の考えが正しい、一番良いと考えがちですが、異なった考えを持つ人がいるのだと知ることが、”自分と違う行動をとる人”と折り合いをつけ共生していく第一歩となるのではないかと思います。

## やさしい日本語

日本語教師 林三郎

### 「寺子屋教育」と「AI世代」(前号の続き)

子供たちから、『AIに聞けばなんでも教えてくれるのだから勉強はしなくていいじゃない?』、と聞かれたらどう答えますか?以下はこの問いをAIに聞いた、「AI自身の答え」です。AI時代の学習は「AIに代替させるため」ではなく「AIを使いこなすための基礎(土台)を作るため」と定義できます。AIが文字を書き、計算を解いてくれる時代に、「手書き」や「自力での計算」の訓練は、教育的・脳科学的な視点で見ると、それは単なる「作業」ではなく「脳の回路を作る工事」のような重要な意味を持っています。

①脳の活性化と「記憶の定着」 タイピングや音声入力と違い、手で鉛筆を動かす行為は非常に複雑な脳の処理を必要とします。紙の抵抗感、文字の形を認識する視覚、これらが同時に働くことで、脳に「これは重要な情報だ」と認識させ記憶の深い場所に刻み込みます。

②「論理的思考」の「基礎体力を養う」 計算を自分の手で行うのは、答えを出すためだけでなく、答えにたどり着くまでのプロセス(筋道)を脳に覚え込ませ、思考の解像度を上げます。「どこで間違えたか」に気づく力を養います。この「推論し、検証する力は、将来プログラミングや複雑な社会問題を解決したりする際の基礎(ロジカルシンキング)になります。

③「自制心と集中力、身体的な自信と達成感」「自己肯定感」の育成。漢字の練習や計算の反復は正直「面倒くさい」ものです。目の前の課題を最後まで終わらせる、という一見「面倒くさい訓練」が、将来どんな仕事に就くにしても必要な「やり抜く力(グリッド)」を育てます。以上が「AIからの答え」です。

寺子屋時代の「読み書き計算」の訓練が、AI時代にも重要な意味があると再確認できました。

### 「日本で生活して気づいたこと」

ジウ



ベトナムでは、ほとんどの学校でスポーツクラブがないため、子どもたちは自分たちで集まって好きな遊びをすることが多いです。母親たちは子どもが遊ぶことを禁止することは少ないですが、遊びすぎたり服が汚れたりするとよく文句を言い、**遊びの持つ前向きな面**についてはあまり考えません。私も子どものころ、毎日のようにそうした文句を聞いていたので、今、二人のやんちゃな息子がいる私は、多くのベトナムの母親と同じように、子どもが転んだり服を汚したりすると心配し、つい文句を言ってしまう。

しかし、経験豊富で二人の息子を持つ同僚と話すことで、考え方が少し変わりました。その方は、試合に出て服がきれいなままなら、それは控え選手である可能性が高いと教えてくれました。極端な見方ですが、子どもが試合から帰って服が汚れていると喜び、服がきれいだと少し残念に思うのでしょうか。でももしかしたら日本のお母さんたちは、**遊びの持つ前向きな面**もわかっていて、遊びで服を汚しても気にならないのかもしれない。試合と遊びとは違うとは思いますが、遊びの持つ前向きな面をしっかり見つめれば、服の汚れというような些細な悩みは重要ではなくなります。良いことでも悪いことでも、見方を変えれば違った意味を持ち、より適切に行動できるようになります。

### 「ようこそ日本へ! 16期生6名が新たな一歩を踏み出しました」

市川

暦の上では春とはいえ、まだ寒さの厳しい2月1日。インドネシアから慈照会様の技能実習生6名が到着しました。南国から来た彼らにとって、日本の寒さは未知の体験。「寒い!」と驚きながらも、その表情はこれからの生活への期待に満ち溢れていました。

入国2週間後に、慈照会様、共和病院様、南知多病院様の実習生の先輩たちも応援に駆けつけてくれました。立派に成長した先輩たちの姿を見て、6名も「自分たちもあんな風になりたい」と安心した様子でした。現場で活躍する「かっこいい、可愛い」先輩たちの姿は、これから入国講習を始める6名にとって大きな希望となったようです。同じ母国出身の先輩が身近にいる環境は、彼らにとって何よりの安心となりました。

現在、一生懸命に講習を受ける彼らの日常をInstagramで公開中です。頑張る彼らの姿を、ぜひチェックしてみてください!

### 編集後記

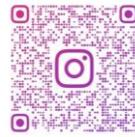
#### 入国後講習

2月に入国した技能実習生たちは、まず、日本の寒さに大変驚き、服装の指導から始まりました。日本での生活においては、自転車の乗り方やゴミ出しのルール、トイレの使い方、家電製品の使い方、買い物の方法、そして静かに話すことの大切さなど、多くのことを学び、その違いに驚く様子も見られました。

あと1か月、さらなる飛躍につながられるよう、教師一同一丸となって指導に努めてまいります。



@TRAD.INGCARE



@Tsunagu\_Takahama



**入国後講習  
公開中**  
実習生の日常の  
様子をご覧ください

公益社団法人 트레이ディングケア  
〒444-1303  
愛知県高浜市小池町6-5-6  
TEL 0566-57-7700  
FAX 0566-57-7700  
日・月・祝日はお休みです。